

実習報告書 神戸大学医学科6年生 麻田裕之

実習先 Mahidol University Siriraj Hospital

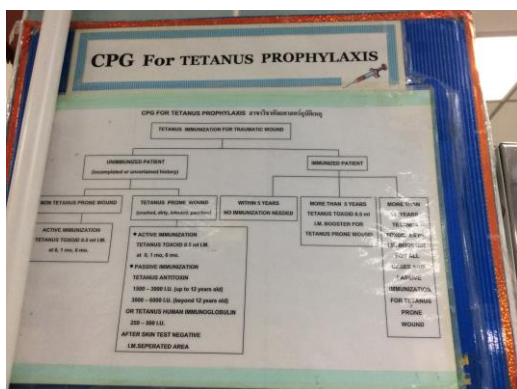
実習期間 4/4-4/29

今回僕はマヒドン大学シリラー病院で Trauma Surgery で 2 週間、Applied Center of Thai Traditional Medicine で 2 週間の計 4 週間、病院実習をしてきたのでここに報告したいと思います。

まず、何故この病院での実習を希望したかという、第一に熱帯感染症に興味があり、この病院の感染症内科での実習に参加してみたかったことがあげられます(書類の手違いで残念ながらこの願いは叶いませんでした)。もう一つの理由はタイの文化、食事などに一度触れてみたかったからです。

実習する診療科は、上にも書きましたが感染症内科は受け入れ不可とのことで、どうせ実習するなら日本では経験できないことをしてみたいと思い Trauma Surgery と Applied Center of Thai Traditional Medicine を選びました。

Trauma Surgery では外来を中心に様々な症例と処置をみることができました。日本と比べてかなり多いなと思ったのはバイク事故と動物による咬傷です。バイク事故では破傷風を念頭に処置し、犬猫による咬傷の場合には狂犬病、蛇による咬傷の場合には蛇のもつ毒を考慮しつつ処置することのことでした。2 週間実習していて印象的だったのが研修医の方がタイ国内で最大級の病院であっても医療資源が十分といえないとおっしゃっていたことで、臍の縫合なども外来の診察台で行っていました。関連して聞いた話では、医学部生は学費の大半を政府に負担してもらっていて、卒業後は政府のために地方で働くそうです。地方の病院では都市部の病院と比べて圧倒的医療資源が足りておらず、否が応で工夫して医療を行う習慣がつくのかなと思いました。



←外傷患者に対する破傷風ワクチン接種ガイドライン

Trauma Surgery での 2 週目の水曜日からはタイの正月、ソンクラーンだったので週末を合わせて五連休をいただき様々な場所を観光することができました。ソンクラーンとは元々年長者への敬意を示すために水をかける儀式で、それが年月の経過とともに街中で水鉄砲やらバケツやらで水をかけあうお祭りに変化したそうです。他の留学生とともに現地の人々との水にかけ合いを楽しめて、よい思い出となりました。

Thai Traditional Medicine では主にハーブを用いた治療と、マッサージを学びました。ここでは西洋医学とは異なる、「人間の体は土、水、風、火の 4 つの要素から成り立っている」という概念を基に、上記の要素の乱れが体の不調となってあらわれると考え、それを整えることで治療を行っていました。普段慣れ親しんでいるものとは全く異なる考え方でとても興味深かったです。マッサージも実践しながら学ぶことができて楽しかったです。



←Thai Traditional Medicine
の学生達と Duke University の
レジデントと

この四週間の実習では日本では見ることのできない症例を見たり、タイと日本の医療現場の違いを目にしたり、非常に貴重な経験をすることができました。この留学で得たものは今後医師としての人生の糧となると思っています。そして何よりも留学先で得た人々との繋がりが今回得た最大のものだと思います。

今回、1 ヶ月の海外留学という貴重な機会を与えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。協定を結び留学を可能にして下さった先生方、たくさんの手続きを助けて下さった教務課、学務課の方々、ありがとうございました。